

東南アジア文学の魅力と翻訳 —インドネシアのベストセラー小説 『虹の少年たち』の訳者にきく

講演者： 福武慎太郎
(上智大学外国語学部アジア文化研究所准教授)

加藤ひろあき
(東京外国語大学外国語学部卒業生)

日時：2013年12月16日(月) 3限 12:40-14:10
場所：研究講義棟4F 422 総合文化研究所
インドネシア語読解の時間帯を使いますが、どなたでも自由に参加できます。

問い合わせ：青山亨研究室 taoyama@tufs.ac.jp

田舎の村の小学校の子どもたちの成長と先生との交流を描いたアンドレア・ヒラタによる原作は2005年に出版され500万部というベストセラーとなりました。3年後に映画化され、大ヒットを記録。日本語訳は福武氏と本学卒業生加藤ひろあき氏の共訳で今年、サンマーク出版から出版されました。

講演では、原作*Laskar Pelangi*の魅力、小説を通して読み解く異文化理解、インドネシア語から日本語への翻訳で出会った課題などに触れつつ、翻訳という仕事の現場の苦勞と喜びを語っていただきます。